

第3学年2組 社会科学習指導案

授業日 平成29年9月29日(金) 授業A
授業者 附属新潟小学校 教諭 八幡 昌樹
会場 3年2組教室

1 単元名
昔の道具とくらし

2 本単元の価値
本単元は、新学習指導要領第3学年内容(4)を受けて設定したものである。

(4) 市の様子に移り変わりについて、学習の問題を追究・解決する活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
ア 次のような知識及び技能を身に付けること。
(ア) 市や人々の生活の様子は、時間の経過に伴い、移り変わってきたことを理解すること。
(イ) 聞き取り調査をしたり地図などの資料で調べたりして、年表などにまとめること。
イ 次のような思考力・判断力・表現力等を身に付けること。
(ア) 交通や公共施設、土地利用や人口、生活の道具などの時期による違いに着目して、市や人々の生活の様子を捉え、それらの変化を考え、表現すること。

本単元では、古くから残る暮らしにかかわる道具を調べることを通して、それらを使っていた頃の暮らしの様子を学習する。今では見ることが少なくなったものを、祖父母や父母といった家族への聞き取り調査や歴史博物館の見学による調査活動、生活経験に基づく現在の暮らしとの比較を通して考えさせることを大切にす。この学習を通して、道具には昔の人々の生活をよりよくしたいという願いに基づいた知恵や工夫があり、道具が変化するとともに人々の生活も変化させてきたことをとらえられるところに本単元の価値がある。

また、地域社会、延いては日本は古くから外国のものや文化を上手に取り入れて自国化することによって、文化を発展させたり生活を豊かにしたりしてきた歴史がある。この単元においては、自分たちの暮らしをよりよくしたいと願った昔の人たちが知恵を働かせて外国とかかわる工夫をしてきたことについても追究することができる。今回主に取り上げるのは、洗濯に関する道具である。洗濯に関する道具は、洗濯板、手回し洗濯機、一槽式洗濯機、二槽式洗濯機、全自動洗濯機、乾燥機能付き洗濯機へと、手作業から電気を使うものに改良されてきた。ここには、洗濯を楽にしたい、もっと便利な道具を使いたいという願いが込められている。洗濯板は、明治の初めにヨーロッパから伝わったものである。日本における電気洗濯機は、1928年にアメリカ製のものが輸入販売されたことから始まる。2年後の1930年にはアメリカの技術を取り入れて開発されたものが国産第一号として生産・販売された。しかし、いずれも高価であること、広いスペースを必要とすることを理由に普及は進まなかった。その後、1952年にはイギリス製を参考にして研究開発して作られた日本製の一槽式洗濯機が、値段も安く、大きさもコンパクトなサイズになったことにより、多くの家庭に普及して使われるようになった。そして、1960年代には二槽式洗濯機が登場し、洗濯槽に加えて脱水槽が加わり、1990年代になると洗濯・すすぎ・脱水を一つの槽で行う全自動式洗濯機が普及し始めた。このように、洗濯に関する道具は外国の技術を日本国内で自国化することによって、日本の家庭生活で使いやすく、風土に合ったものへと改良されて普及してきたのである。

このように外国の技術を取り入れながら改良が重ねられ、現在の生活で使われている道具は数多くある。ラジオ、電話、照明器具、掃除機等、今では生活に欠かせないものばかりである。こういった道具の普及は、日本人の生活を根本的に変え、文化まで大きく変えることになった。また、家庭生活における女性の時間の使い方を大きく変えたとも言われる。電気を使う道具へと改良を進めたことによって、家事にかかる時間が短縮された。それに伴い、女性の社会進出は大きく加速したのである。つまり、時間の経過に伴って道具が改良されていったことが地域社会の様相を変えた。外国の技術を取り入れるという外国とのかかわりがあることによって、豊かな生活ができることにつながってきたと言える。このようにとらえられることにも本単元の価値がある。

3 本単元で目指す姿
昔の道具が普及した要因を追究し、地域社会と外国とのかかわりをとらえる子ども
具体的には、「昔の人たちは、いろいろな道具に外国の技術を取り入れて日本の生活に合うように改良する工夫をしてきた。そのような道具がどんどん普及し、今の便利な生活につながっている」などと考える姿

4 本単元で育成する資質・能力
単元カード参照

5 指導計画 全10時間(30Q)
単元カード参照

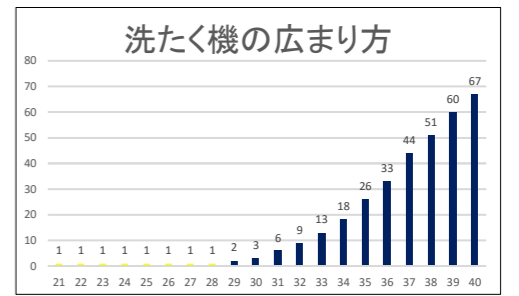
6 指導の構想
子どもは、洗濯するための道具の時期による違いについて、資料を調べたり家族への聞き取り調査を行ったりするなど、問題解決的な学習を通して、昔は今とは異なる道具を使って洗濯をしていたこと、電気を使った洗濯機に改良されてきたことといった昔の道具やそれを使った暮らしの様子をとらえている。そして、昔の人たちの知恵や工夫によって道具が電化製品を使うように改良されて便利になってきたという昔のくらしの特色をとらえている。さらに、学習してきたことを確かめるために新潟市歴史博物館を見学し、実際に道具を見たり触ったりする体験をしている。このときには、学芸員の方から話を聞いて、昔の人たちの知恵や工夫をとらえている。

これまでの学習や生活経験から、自分の身の回りには外国の技術を取り入れた道具があるという事実とその理由、そしてそれによって豊かな生活ができるとまでは考えていない(C0)。このような子どもに、次のように働き掛ける。

働き掛け1
アメリカ製の洗濯機と日本製の一槽式洗濯機の普及率を提示し、疑問に思うことを問う。

日本製の一槽式洗濯機が普及した要因に関する学習問題を設定させるための働き掛けである。

まず、外国との関連が見える事実として、アメリカで開発された世界初の電気洗濯機と、日本で飛躍的に普及した一槽式洗濯機を提示し、気付いたことを問う。アメリカ製の電気洗濯機と日本製の一槽式洗濯機の2つを提示するのは、比較によって空間的な広がり、人々の工夫や努力に着目する「見方・考え方」を働かせ、「世界初のアメリカの洗濯機が広まらなかったのに、なぜ日本で作られた一槽式洗濯機がたくさん広まったのか」と考え、日本製の一槽式洗濯機が普及した要因に関する学習問題を設定する(①知識・技能③態度)。



そこで、2つの事実を比較して疑問に思うことを問う。子どもは、「なぜ洗濯機があった方が楽なのに、アメリカの洗濯機は広まらなかったのか」「なぜ日本の洗濯機はこんなに大きく広まったのか」などと、洗濯機が普及した要因に関して問題意識を高める。子どもは、空間的な広がり、人々の工夫や努力に着目する「見方・考え方」を働かせ、「世界初のアメリカの洗濯機が広まらなかったのに、なぜ日本で作られた一槽式洗濯機がたくさん広まったのか」と考え、日本製の一槽式洗濯機が普及した要因に関する学習問題を設定する(①知識・技能③態度)。

働き掛け2
学習問題に対する予想と理由を問う。

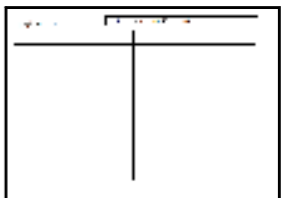
設定した学習問題を追究する過程に見通しをもたせるための働き掛けである。

学習問題を設定した子どもに、学習問題に対する予想と理由を問う。予想は既存の知識を表出させるためであり、さらに理由を問うのは追究の視点を明確化するためである。子どもは、これまでの学習や生活経験を想起し、空間的な広がり、人々の工夫や努力に着目する「見方・考え方」を働かせ、「日本の洗濯機が使いやすくて便利だった。これまでも洗濯板から変わって洗濯機が使いやすくて便利になるように改良してきたから」「日本の洗濯機は大きさが小さかったから。写真を見ると形や大きさが違っているから」「生活の仕方が違った。アメリカと日本では着ているものが違って洗濯の仕方も違うはずだから」などと、日本製とアメリカ製とを比較した予想をし、その理由も表出する(①知識・技能③態度)。出された予想を共通点毎に分類して板書する。子どもは、予想の共通点から、洗濯機そのものの特徴、それを使っていた生活の様子との2つの視点から調べていけばよいと考える。このように、学習問題に対して予想し、追究の視点を明確化した子どもは、追究の過程に見通しをもっている状態である。

働き掛け3
調査活動を設定し、結論を問う。

課題解決に必要な事実を調べ、洗濯機の事例についての結論を出させるための働き掛けである。

学習問題を解決する見通しをもった子どもに、調査活動を設定する。ここでは、子どもが望んだ解決方法の中から、本単元の学習に関する内容が記載された学校図書館、市立図書館の本を使用させたり、歴史博物館の学芸員の方の話を聞かせたりする。さらに、調査活動で分かったことを整理させるために、Tチャートを提示する。Tチャートを提示するのは、働き掛け2において明確化された視点が2つだからである。子どもは、空間的な広がり、人々の工夫や努力に着目する「見方・考え方」を働かせ、資料から「一槽式洗濯機は外国の技術を取り入れて作られた」「日本の家庭生活に合うコンパクトな大きさだった」「値段が安かった」といった分かったことを洗濯機の特徴、生活の様子との2つの視点で整理しながらTチャ



～Tチャート～

ートに記述していく（①知識・技能、協働性、ツール活用能力）。調べて分かったことから学習問題に対してどんなことが考えられるかを問う。子どもは、空間的な広がり、人々の工夫や努力に着目する「見方・考え方」を働かせ、友達の考えとつなげて話し合い、「洗濯機は、外国の技術を日本の生活に合わせて取り入れる工夫をしたことによって、どんどん普及していった」などと、洗濯機が普及した要因は外国とのかかわりがあるからだともとめる（①知識・技能②思考力・判断力・表現力）。

働き掛け4
洗濯機と同じような道具がほかにあるかを問い、もう一度調査活動を設定する。

洗濯機の事例から一般化を図らせるための働き掛けである。
取り上げた洗濯機の事例から外国とのかかわりに気付いた子どもに、「洗濯機と同じような道具がほかにもあるか」と問う。洗濯機からほかの道具へと目を向けさせ、一般化させていくためである。子どもは、空間的な広がり、人々の工夫や努力に着目する「見方・考え方」を働かせ、「洗濯機のような道具はほかにもありそうだ。昔の道具について調べたときに本に書いてあった」などと考える。そして、子どもに確かめたいことを問う。子どもは「洗濯機のほかに外国の技術を取り入れて普及した道具にはどんなものがあるのか」と考え、それを新たな学習問題として設定する（①知識・技能③態度）。新たな学習問題を設定した子どもに、それを解決させるため、もう一度調査活動を設定する。子どもは、空間的な広がり、人々の工夫や努力に着目する「見方・考え方」を働かせ、資料から「ラジオも外国の技術を取り入れたものだ」「電話だって、車だってそうだ」などと、洗濯機のほかにも外国の技術が取り入れられた道具が多くあることに気付く（①知識・技能、協働性）。

働き掛け5
学芸員の方の話を提示し、学習問題に対する結論、自分の考えを問う。

学習問題を解決させ、地域社会と外国とのかかわりをとらえさせるための働き掛けである。
外国の技術を取り入れた道具が多くあることに気付いた子どもに、どうすれば考えたことが確かめられるかと問う。自分の考えの検証を促すためである。子どもは、これまでもお世話になった学芸員の方に話を聞きたいと考える。そこで、考えを確かめさせるために学芸員の方の話を提示する。それは、「昔の道具には、洗濯機やラジオ、照明器具など、外国の技術を取り入れてきたものがたくさんある。昔の人たちは、便利な生活をするために、日本の家庭生活に合わせて道具を改良していったから、多くの家庭にどんどん普及していった」という内容である。子どもは、この話を自分の考えと照らし合わせて確かめていく。

自分の考えを確かめた子どもに、学習問題の結論、自分の考えを問う。結論に対する自分の考えは、自分の生活とつなげて考えたことを書くことに継続的に取り組んでいる。子どもは、空間的な広がり、人々の工夫や努力に着目し、自分の生活と関連付けて考える「見方・考え方」を働かせ、「昔の人たちは、いろいろな道具に外国の技術を取り入れて日本の生活に合うように改良する工夫をしてきた。そのような道具がどんどん普及し、今の便利な生活につながっている」と地域社会と外国とのかかわりをとらえる（①知識・技能②思考力・判断力・表現力）。

このようにして、子どもは昔の道具が普及した要因を追究し、地域社会と外国とのかかわりをとらえる子ども（Cn）になる。

7 本時の構想（本時8/10時間）

(1) ねらい

アメリカ製の電気洗濯機と日本製の一槽式洗濯機とを比較することを通して、日本製の一槽式洗濯機が普及した要因に関する学習問題を設定し、課題解決の見通しをもって調査活動を行うことができる。

(2) 主張（展開）3Q（45分）

- このような子どもに（C0）**
- 洗濯をするための道具の時期による違いについて、資料を調べたり家族への聞き取り調査を行ったりしている。
 - 昔は今とは異なる道具を使って洗濯をしていたこと、電気を使った洗濯機に改良されてきたことといった昔の道具やそれを使った暮らしの様子をとらえている。
 - 昔の人たちの知恵や工夫によって、道具が電化製品を使うように改良されて便利になってきたという昔のくらしの特色にも気付いてきている。
 - 学習してきたことを確かめるために新潟市歴史博物館を見学し、実際に道具を見たり触ったりする体験をし、学芸員の方から話を聞いて、昔の人たちの知恵や工夫をとらえている。
 - これまでの学習や生活経験から、自分の身の回りにはもともと外国の技術を取り入れた道具があるという事実とその理由、そしてそれによって生活が豊かになっているとまでは考えていない。

このように働き掛けると【働き掛け1】

- アメリカ製の電気洗濯機と、日本製の一槽式洗濯機の写真を提示する。
・説明「今から写真を見てもらいます。これは今から80年前、世界初のアメリカで作られた洗濯機です。この洗濯機は世界中に広まりました」
※ プレゼン資料を基に洗濯機について説明する。

- ・指示「日本では、このくらい広まりました。グラフを見てください」
- ※ 黒板にグラフを掲示し、段階的に昭和20年から28年までの普及率のデータを示す。
- ・発問「グラフを見て気付いたことはありますか」
- ・発問「昭和28年まで経ちました。この頃はどんな洗濯機が使われていましたか」
- ※ 教室に掲示してある年表で、一槽式洗濯機であることを確認する。
- ・説明「日本で一槽式洗濯機が作られるようになったのです。このあと、どのくらい広まったかという…」
- ※ 段階的に昭和29年から昭和39年までの普及率のデータを示す。
- ・発問「グラフを見て気付いたことはありますか」
- 2つの事実を見て、疑問に思うことを問う。
- ・発問「これまでに疑問に思うことはありますか」
- ※ 疑問に思うことをノートに記述させる。
- ・指示「疑問に思ったことを発表しましょう」
- ・発問「なぜそう思ったのですか」
- ※ 一槽式洗濯機が普及した要因に関する子どもの発言をつなげ、学習問題を設定させる。
- ・発問「みんなの疑問をまとめると、今日の学習問題は『世界初のアメリカの洗濯機が広まらなかったのに、なぜ日本で作られた一槽式の洗濯機がたくさん広まったのか』でいいですか」
- ※ 設定した学習問題に同意できるかを確認して次へ進む。

このようになり（C1）

- アメリカ製の電気洗濯機と日本製の一槽式洗濯機とを比較して、普及率の違いを考える。（アメリカ製の電気洗濯機）
 - ・丸くて少し大きい形をしている。
 - ・世界初の洗濯機だからすごい。
 - ・世界中に広がっているところがすごい。
 - ・日本では全然広がっていない。
- （日本製の一槽式洗濯機）
 - ・おじいちゃんおばあちゃんが子どもの頃に使っていたものだ。
 - ・四角い形であまり大きくはない。
 - ・すごいぐんぐん広がっている。
 - ・世界初の洗濯機と比べものにならないくらい広がっている。
- 日本製の一槽式洗濯機が普及した理由に関する学習問題を設定する。
 - ・なぜ洗濯機があった方が楽なのに、アメリカの洗濯機は広まらなかったのか。
 - ・なぜ日本の洗濯機はこんなに大きく広まったのか。
- （学習問題）
- ◎ **世界初のアメリカの洗濯機が広まらなかったのに、なぜ日本で作られた一槽式の洗濯機がたくさん広まったのか。** ★社会①③
 - ※ のように空間的な広がり、 のように人々の工夫や努力に着目する「見方・考え方」を働かせ、それに関する疑問を記述をしていたら、問いをもった姿とみなす。

このように働き掛けると【働き掛け2】

- 学習問題に対する予想と理由を問う。
 - ・発問「学習問題ができたなら、次は予想ですね。その理由と合わせて、学習問題に対して予想をしてみましょう」
 - ※ 予想をノートに記述させる。
 - ・発問「どんな予想をしましたか。その理由は何ですか」
 - ※ 補助発問「もう少し詳しく言えますか」
 - ・発問「みんなは、どんなことに注目しているのですか」
 - ・説明「みんなは、洗濯機そのものの特徴とその頃の生活の様子という2つのことに注目しているのですね。それでは、この2つのことに注目して調べていきましょう」
 - ・発問「どんな方法で調べていきますか」

このようになり（C2）

- 学習問題に対する予想とその理由を表出する。
 - ・日本の洗濯機が使いやすくて便利だった。洗濯板からローラーが付いた洗濯機になって脱水ができて便利に改良してきたから。
 - ・日本の洗濯機は小さかった。写真を見ると形や大きさが違っているから。
 - ・生活の仕方が違った。アメリカと日本では着ているものが違って洗濯の仕方も違うはずだから。
 - ・洗濯機のことについて、もう一度詳しく調べてみたい。
 - ・その頃の家の様子や生活の仕方を調べてみたい。
 - ・図書館の本を使って調べよう。
 - ・みなとびあの学芸員の方に聞いてみよう。

★社会①③

- ※ 〃のように空間的な広がり、〃のように人々の工夫や努力に着目する「見方・考え方」を働かせて、学習問題に対する予想をすることができたら通過とみなす。

このように働きかけると【働き掛け3】

- 調査活動を設定する。
- ・指示「それでは図書館やほんぼーとから借りた本を使って調べていきましょう」
- ※ 昔の道具や暮らしに関する内容で、事前に50冊程度用意しておく。
- ・発問「洗濯機そのものの特徴、生活の様子の中の2つのことに注目して調べようと考えましたよね。2つのことについて、分かったことを整理するために使えるツールは何ですか」
- ・指示「それではTチャートに、洗濯機の特徴、生活の様子の中の2つを書き込みましょう」
- ※ Tチャートを配付する。
- ・指示「それでは、たくさん本がありますから、本を使って調べていきましょう」
- ・発問「本を使って調べて分かったことがありましたね。ほかの方法でも調べてみますか」
- ・指示「学芸員の方に話を聞きたいのですね。それでは話を聞いた動画がありますので見ましょう」
- 【学芸員の方の話の内容】
- 洗濯については、洗濯板も二槽式洗濯機も外国の技術を取り入れてきました。日本の家庭生活に合うように外国のものを上手に改良する工夫をしていたのです。使いやすい便利な道具になったことで、どんどん普及していったのです。
- 学習問題に対する結論を問う。
- ・発問「調べてどんなことが分かりましたか」
- ※ 発言を受けて、Tチャートの形式に整理して板書する。
- ・発問「2つのことに注目して、それぞれに分かったことがありましたね。このことからどんなことが結論として考えられますか」
- ※補助発問「〇〇さんの言いたいことが分かりますか」
- ※補助発問「〇〇さんにつなげて話ができる人はいますか」
- ・発問「学習問題の結論はどうなりますか。ノートに書きましょう」

このようになり (C3)

- 日本製の一槽式洗濯機が普及した要因につながる事実を調べる。
 - ・ほんぼーとの本で調べよう。
 - ・2つのことからTチャートを使えばいい。
 - ・一槽式洗濯機は、外国の技術を取り入れて作られた。
 - ・日本の家庭生活に合うコンパクトな大きさだった。
 - ・値段が安かったり、短い時間で洗濯が終わったりする。
 - ・アメリカ製の電気洗濯機は、日本でも作られるようになったけど高くてあまり売れなかった。
 - ・世界の国には広まっても、日本の生活に合わなかった。
 - 学習問題の結論を考える。
 - ・洗濯機は、外国の技術を取り入れていた。日本の生活に合うように、大きさも小さくした。値段も安くなって買いやすいから広がってきた。つまり、使いやすくなるように改良してきたから普及した。
 - ※ 〃のように空間的な広がり、〃のように人々の工夫や努力に着目する「見方・考え方」を働かせて、調べて分かったことを記述することができたら通過とみなす。
- ★社会①, 協働性, ツール活用能力**

本時ここまで

このように働きかけると【働き掛け4】

- 洗濯機と同じような道具がほかにあるかを問う。
- ・発問「洗濯機は外国の技術を取り入れて、使いやすくなるように改良してきたのですね。それでは、洗濯機と同じような道具がほかにもあるでしょうか」
- ・発問「これから考えていきたいことは何ですか」
- もう一度調査活動を設定する。
- ・発問「調べてどんなことが分かりましたか」
- ・発問「分かったことからどんなことが考えられますか」
- ※補助発問「〇〇さんの言いたいことが分かりますか」
- ※補助発問「〇〇さんにつなげて話ができる人はいますか」

このようになり (C4)

- 昔の道具について新たな学習問題を設定する。
- ・洗濯機のような道具はほかにもありそうだ。
- ・昔の道具について調べたときに本に書いてあった。
- ・外国で生まれた道具なんてたくさんあると思う。
- ・ほかにもあるか確かめたい。

(学習問題)

- ◎ 洗濯機のほかに外国の技術を取り入れて普及した道具にはどんなものがあるのか。

★社会①③

- 外国の技術を取り入れた道具について、調査活動を行う。
 - ・ラジオも外国の技術を取り入れたものだ。
 - ・電話だって、車だって外国の技術を取り入れたものだ。
 - ・洗濯機のほかにも、外国の技術を取り入れてきた道具はたくさんあるようだ。
 - ・今自分が使っているものの多くが外国の技術を取り入れたものだ。
 - ※ 〃のように空間的な広がり、〃のように人々の工夫や努力に着目する「見方・考え方」を働かせて、自分の考えを記述することができたら通過とみなす。
- ★社会①, 協働性**

このように働きかけると【働き掛け5】

- 自分の考えを検証させるために、学芸員の方の話を提示する。
- ・発問「自分たちの考えがまとまりましたね。それでは、本当にその考えで正しいのですか。どうやったらそれが正しいか確かめることができますか」
- ・指示「学芸員の方にお話を聞いてきました。動画を見て確かめましょう」
- 【学芸員の方の話の内容】
- 昔の道具には、洗濯機やラジオ、照明器具など、外国の技術を取り入れてきたものがたくさんあります。昔の人たちは、便利な生活をするために、日本の家庭生活に合わせて道具を改良する工夫をしていったから、多くの家庭にどんどん普及していったのです。
- 学習問題に対する結論を問う。
- ・発問「学習問題『洗濯機のほかに外国の技術を取り入れて普及した道具にはどんなものがあるのか』について、あなたの答えは何ですか。そして、その答えについて考えたことを書きましょう」
- ※ ノートに結論、自分の考えを記述させる。

このようになる (Cn)

- 学芸員の方の話を聞いて自分の考えを確かめる。
 - ・歴史博物館の人に話を聞いたらたぶん分かるはずだ。
 - ・外国の技術を取り入れて改良したものはやっぱりたくさんある。
 - ・昔の人たちは便利な生活をするために、外国のものを取り入れる工夫をしたのだな。
 - 道具を使っている自分の生活と外国とのかかわりを考える。
 - ・昔の人たちは、いろいろな道具に外国の技術を取り入れて日本の生活に合うように改良する工夫をしてきた。そのような道具がどんどん普及し、今の便利な生活につながっている。
 - ※ 〃のように空間的な広がり、〃のように人々の工夫や努力に着目し、〃のように自分の生活と関連付けて考える「見方・考え方」を働かせて、自分の考えを記述することができたら表れありとみなす。
- ★社会①②**

8 検証

(1) 検証すること

- ① 構想した働き掛けにより、想定したC_nになったか。
- ② 構想した働き掛けにより、想定した「見方・考え方」を働かせることができたか。
- ③ 構想した働き掛けにより、想定した資質・能力を発揮することができたか。

(2) 検証の方法

- ① 働き掛け5を受けて、〃のように、地域社会と外国とのかかわりをとらえることができたかを、ノートの記述から検証する。
- ② 働き掛け1, 2, 3, 4, 5を受けて、以下のように、社会的事象の「見方・考え方」を働かせていたかどうかを検証する。
 - ・ 〃のように、空間的な広がりに着目するという「見方・考え方」を働かせていたかどうかを発言、ノートの記述から検証する。
 - ・ 〃のように、人々の工夫や努力に着目するという「見方・考え方」を働かせていたかどうかを発言、ノートの記述から検証する。
 - ・ 〃のように、自分の生活と関連付けて考えるという「見方・考え方」を働かせていたかどうかを発言、ノートの記述から検証する。
- ③-1 働き掛け5を受けて、〃のように、地域社会と外国とのかかわりをとらえることができたかどうかを、ノートの記述から検証する。
- ③-2 働き掛け4を受けて、〃のように、洗濯機が普及した要因を関連付けて考えることができたかどうかをノートの記述から検証する。
- ③-3 働き掛け1, 2を受けて、〃のように、問いをもち、予想することができたかどうかを、ノートの記述から検証する。